

令和 3 年度 第 2 回 沖縄県がん診療連携協議会議事要旨

日 時	令和 3 年 8 月 6 日 (金)	14:00～16:35
場 所	WEB 会議／議長	琉球大学医学部 管理棟 3 階 大会議室
構 成 員	30 名 (欠席者 6)	
1 号委員	(琉大病院長)	大屋 祐輔
2 号委員	(県立中部病院長)	玉城 和光 (代理)
	(那覇市立病院長)	外間 浩
3 号委員	(県立宮古病院長)	本永 英治 (欠席)
	(県立八重山病院長)	篠崎 裕子
	(北部地区医師会病院長)	諸喜田 林
4 号委員	(沖縄県医師会長)	安里 哲好 (欠席)
5 号委員	(沖縄県歯科医師会長)	米須 敦子 (代理)
6 号委員	(沖縄県薬剤師会長)	前濱 朋子 (欠席)
7 号委員	(沖縄県看護協会会長)	平良 孝美 (欠席)
8 号委員	(沖縄県政策参与)	対象者なし (構成員外)
9 号委員	(沖縄県保健医療部長)	大城 玲子 (欠席)
10 号委員	(琉大がんセンター長)	増田 昌人
11 号委員	(琉大がんセンター運営委員会委員長)	青木 陽一
12 号委員	(琉大医療福祉支援センター長)	平田 哲生 (欠席)
13 号委員	(琉大薬剤部長)	中村 克徳
14 号委員	(琉大看護部長)	眞栄城 智子
15 号委員	(琉大事務部長)	鬼村 博幸
16 号委員	(県立中部病院副病院長)	前田 純子
	(県立中部病院血液腫瘍内科部長)	朝倉 義崇
	(那覇市立病院外科統括科部長)	宮里 浩
	(那覇市立病院外科部長)	友利 寛文
17 号委員	(県立宮古病院外科部長)	松村 敏信
	(県立宮古病院副院長)	見里 悟美
	(県立八重山病院消化器内科部長)	菊池 馨
	(県立八重山病院副院長)	平良 美江
	(北部地区医師会病院副院長)	柴山 順子
	(北部地区医師会病院看護部長)	我如古 春美
18 号委員	(沖縄県がん患者会連合会事務局長)	安里 香代子
	(ゆうかぎの会(離島圏におけるがん患者支援を考える会)会長)	眞栄里 隆代
	(サバイバーナースの会「ピアナース」代表)	上原 弘美
	(パンキャンジャパン沖縄アフィリエイト)	島袋 百代
19 号委員	(国際医療福祉大学大学院教授)	埴岡 健一
	(一般社団法人グループ・ネクサス理事長)	天野 慎介
	(琉球新報編集局次長・報道本部長)	島 洋子
20 号委員	(琉大病院病理部長)	加留部 謙之輔
	(琉大病院小児科講師)	百名 伸之
	(那覇市立病院放射線科部長)	足立 源樹
陪 席 者	沖縄県保健医療部健康長寿課がん対策班	新垣 真太郎
	沖縄県教育庁保健体育課長	城間 敏生
	県立中部病院放射線治療センター長	戸板 孝文
(以下、Z o o m 傍聴申込)		
ハートライフ病院、友愛センター、琉球大学病院がんセンターほか		

資料確認等

1. 令和3年度第2回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨(7月12日開催)
2. 令和3年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事要旨(5月7日開催)
3. 令和3年度第1回沖縄県がん診療連携協議会幹事録(5月7日開催)
4. 協議会・幹事会委員一覧
5. 令和3年度の協議会・幹事会・部会の開催の日時について
増田委員(10号委員)から資料について確認があった。

また、有識者報告に先立ち、天野委員(19号委員)から、新型コロナウイルス流行によりがん診療に及ぼす影響について、構成員である県内医療機関から報告いただき、影響のある場合は、対策について協議することの提案があり、有識者会議後に討論することとなった。

有識者報告事項

1. 埴岡委員報告

埴岡委員(19号委員)から資料6に基づき、沖縄県大腸がん関連データアップデートについて報告があった。

なお、沖縄県は男性の大腸がん死亡率が高いことから、定期的にデータのアップデートを行うことで、あらためて状況を確認していきたいとの説明があった。

また、データを確認すると、沖縄県における死亡率割合が増えている(悪化している)こと、生存率などの改善率についても全国に比べ低い状態であるとの報告があった。

その他、増田委員から、沖縄県の大腸がんプロジェクトの進捗について、以下のとおり報告があった。

(予防・検診)コロナ禍のため、進捗が思わしくないが、プロジェクトメンバーは月に1度WEB会議を開催し、方策を検討している。

(医療)沖縄県医師会の診療ネットワークを利用し、コンサルテーションシステムの構築を進めており、試験運用を開始した。

2. 天野委員報告

天野委員から資料7に基づき、全ゲノム解析等の実施体制及びスケジュール等について報告があった。

また、全ゲノム解析の実施について、治療ではなく研究として2021年度準備、2022年度準備室設立、2023年度に実施組織が設立されるスケジュールとなっている旨の説明があった。

検討事項

「県内のコロナによるがん診療、がん対策への影響について」

本会冒頭に、天野委員の提案を受け、県内の状況について各病病院の状況と、必要に応じて対策を検討することとなった。また、埴岡委員から当日資料のロジックモデル「地域のがん患者とがん対策への新型コロナウイルス感染症の影響に関する検討について」の配布があり、まずは各自の懸念することを洗い出し、今後詳細なロジックモデルを作成し、継続した状況のモニタリングすることが望ましいのではないかと、との発言があった。

また、各病院の状況について質疑応答を行い、ロジックモデルとの比較を行った。

1. 中間アウトカム「早期発見」について

検診を実施している那覇市立病院、北部地区医師会病院の現状から、早期発見率、検診受審率、精検率の低下が危惧される。

(那覇市立病院)

- ・外間委員(2号委員・那覇市立病院長): 検診は、コロナの影響から、全体として50%程度に止まっている。
- ・宮里委員(16号委員・那覇市立病院外科統括科部長): コロナ患者の診療に関しては感染症専門の医師のみではなく、その他医師職も治療を行うため、がんの早期発見につながる内視鏡の検査が充分に行えない。
- ・宮里委員: 手術件数等の制限はあるが、がん診療については基本的には通常どおり行っている。

(北部地区医師会)

- ・諸喜田委員(3号委員・北部地区医師会病院長): 今年の6月から7月の約1か月半は、名護市のワクチン接種の協力をしたことから、自院での検診を制限したが、7月後半から通常通り検診を開始している。また、内視鏡検査数についても増やすよう心掛けている。
- ・柴山委員(17号委員・北部地区医師会副院長): がんの診療については、通常どおり実施している。

2. 中間アウトカム「治療」について

治療の延期、標準治療の変更、相談支援の実施数等のデータが指標になるのではないかな。

①. 中間アウトカム「治療」について(各病院の状況)

(県立宮古病院)

- ・松村委員(17号委員・県立宮古病院外科部長): 手術制限のため、がん診療に影響がある。

(県立八重山病院)

- ・菊池委員(17号委員・県立八重山病院消化器内科部長): がん治療に関しては、優先させたことから、大きな遅れにはなっていない。また、化学療法に関しては、沖縄本島への渡航制限から、自院で対応可能な治療という前提で、治療者数は増加している。

(県立中部病院)

- ・吉田委員代理(2号委員・県立中部病院長代理): がん関連の治療は通常通り実施している。紹介患者は5割程度減少しているように感じる。

②. 中間アウトカム「治療」について(放射線治療の状況)

(県立中部病院)

- ・戸板氏(陪席者・県立中部病院放射線治療センター長): 基本的には、通常通り治療しているが、前立腺がんなど一定期間の待機が可能と判断できるものは、待機した。また、治療方法について十分なエビデンスのある場合に限り、治療の回数をできるだけ減らし、患者の通院回数を減らす工夫を行った。

(那覇市立病院)

- ・足立委員(20号委員・那覇市立病院放射線科部長): 県立中部病院と同様の工夫を行った。

③. 中間アウトカム「治療」について(患者から相談の立場として)

- ・上原委員(18号委員): 治療の制限は少なくとも、生活の制限は多く、例えばデイケアに行けず運動不足になる、人と会話する機会が減少することで認知機能の低下などが懸念される。また、対面式の交流会等を開催することが困難なことから、がん治療とコロナ感染の不安を解消できる場が不足しているように感じる。

- ・真栄里委員(18号委員): 対面式の交流会の代わりに電話で相談を受けることもあるが、電話だと、はじめての交流の際は信頼関係を気づきにくいことがある。

審議事項

1. 沖縄県における「ライフステージに応じたがん対策」分野の進捗状況について

増田委員から資料8に基づき、沖縄県第3次がん計画に準じた「ライフステージに応じたがん対策」について①小児・AYA世代、②高齢者、に使用する指標を含めてロジックモデルの説明があった。

また、大屋議長から、高齢者特有のがん医療と介護・福祉の関係について、ロジックモデルに反映することも可能かとの質問があり、埴岡委員から、政策が異なることから、横断的な連結のためのロジックモデルを補充することで対応することになるだろうとの回答があった。

2. 沖縄県における「それぞれのがんの特性に応じた対策」分野の進捗状況について

増田委員から資料9に基づき、患者会の意見も取り入れた「それぞれのがんの特定に応じた対策」について「希少がん、難治がん」に使用する指標を含めたロジックモデルの説明があった。

また、天野委員から、国の考えでは、希少がん・難治がん対策の中心の1つにゲノム医療を推進することとなるが、実際に臨床試験を受けるためには東京にある専門機関で治療を受ける必要があることから、まだまだ地域格差があるとの情報提供があった。

3. 沖縄県における「離島及びへき地対策」分野の進捗状況について

増田委員から資料10に基づき、患者会の意見も取り入れた「離島及びへき地対策」についてのロジックモデルの説明があった。

また、増田委員から、ロジックモデルに使用するデータについて、行政の持つ基礎資料の情報提供を受けることができれば、よりよいデータで検討することできるとの発言があり、大屋議長から、患者会などからも行政へ働きかけるよう提案があった。

その他、埴岡委員からロジックモデル作成のポイントとして、データが抽出できるのか、加工しても抽出できないものか、についても検討した方が良いとの指摘があった。また、ロジックモデルを作成したことで満足せず、実際に議論する際に使用し、観察していくことが重要であるとの発言があった。

報告事項

1. 第1回協議会のその後について（令和3年度予算・政策に関する要望書）

※離島・へき地に関連することもあったことから、実際の審議順は、審議事項3.の前に本件の報告を行ったが、本議事要旨では、次第の順序に合わせた。

増田委員から当日資料に基づき、患者会3団体から本協議会への要望書について報告があった。また、4つの要望について、以下のとおり対策を検討した。

要望① 情報提供

目標① ・情報提供・相談支援部会を中心に県内すべての専門医療機関に情報提供できるシステムを構築していきたい。

現状① ・情報提供・相談支援部会を中心に、県内医療機関へ情報提供を行っていく。

要望② 相談体制の構築

目標② ・県内すべての専門医療機関で、希少がん、難治がんに対するオンラインでのセカンドオピニオンを実施したい。

・県内全てのがん診療連携拠点病院で、がん患者のサロンをオンラインで開催できるように取り組みたい。

現状② ・本協議会のHPにバナーを作成し、琉球大学病院で希少がん、難治がんについて相談を受けられることを記した。

・現状として、県内ではオンラインでのセカンドオピニオン対応していないが、情報セキュリティ等を早急に解決することで、実現できるよう進めたい。

- ・がん告知後に相談センターへ相談できる体制づくりについては、告知後に当該患者へあらためて書類を送付することで、がん相談支援センター受診を促すことを開始予定。
- ・ぴあサポートについては、県の受託事業であることから、県と調整し進めたい。
- ・琉球大学病院でがんサロンをオンラインで実施し、そのノウハウが固まり次第、他の医療機関へも方策を周知する予定。

要望③ 離島患者の渡航費助成制度

現状③・金銭面については、県や市町村へ照会する予定。

要望④ 患者会活動に対する支援

現状④ イベントの協力要請等に今まで以上に協力していきたい。

2. 第14回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

本件については、紙面報告となった。

- (1) 第14回協議会
- (2) 第12回がん登録部会
- (3) 第16回情報提供・相談支援部会
- (4) 第8回緩和ケア部会

3. 第3次沖縄県がん対策推進計画(2018～2023)の中間評価について

沖縄県健康長寿課新垣氏から、第3次沖縄県がん対策推進計画(2018～2023)の中間評価について、進捗の遅れについて報告があった。

4. 沖縄県におけるがん対策費について（平成28年度～令和3年度の予算及び決算の推移）

沖縄県健康長寿課新垣氏から、資料12に基づき、沖縄県におけるがん対策費について（平成28年度～令和3年度の予算及び決算の推移について報告があった。

5. 患者会よりの報告

安里委員報告

安里里委員（18号委員）から資料13―（1）に基づき、活動で得たがん患者の生の意見・要望として報告された。

真栄里委員報告

真栄里委員（18号委員）から資料13―（2）に基づき、以下3点の活動について報告された。

- ①がん治療に伴う脱毛に悩む患者支援に関する要請が、宮古島市議会で採決された。
- ②患者会4団体で、がん支援を含む難病渡航費の更なる充実を求め、宮古島市長に要請した。
- ③ゆうかぎの会と県立宮古総合実業高校の合同で、「ハッピーキャップと元気を届けるプロジェクト」というボランティア活動を行っており、今年で10年継続しているとの活動報告があった。

上原委員報告

上原委員（18号委員）から資料13―（4）に基づき、「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2020うらそえ」について活動報告があった。

6. がん教育について

沖縄県教育庁保健体育課長城間氏から、資料14に基づき、がん教育の進捗状況について報告があった。

7. がん患者の就労支援を目的とした夜間放射線治療開始のお知らせについて

足立委員から資料15に基づき、南部徳洲会病院で就労と治療を両立することを目的とし、従来の早朝診療に加え、夜間診療を開始したとの情報共有があった。

(以下については、紙面報告となった)

8. 拠点病院及び診療病院におけるPDCAサイクルの確保（情報提供支援分野）について

9. 北部地区医師会病院と琉球大学病院との定期的なカンファレンスについて

10. がんゲノム医療について

11. 沖縄県がん地域連携クリティカルパス適用状況について

12. 沖縄県がん患者等支援事業の活動報告

13. 沖縄県地域統括相談支援センターの活動報告について

14. 厚生労働省におけるがん関連審議会及び各種会議

(1) 第16回厚生科学審議会がん登録部会

(2) 第1回がんの緩和ケアに係る部会

(3) 第1回 第8次医療計画等に関する報告会

(4) 第19回がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会議

増田委員から、第8次医療計画に大屋議長が参画することとなった旨の報告があった。

15. その他（特になし）

部会報告事項

(以下については、紙面報告となった)

1. 医療部会

2. 緩和ケア・在宅医療部会

3. 小児・AYA部会

4. 離島・へき地部会

5. 情報提供・相談支援部会

以上